

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390800086		
法人名	有限会社 誠心会		
事業所名	認知症型共同生活介護事業所 ゆとり		
所在地	熊本県山鹿市菊鹿町下内田75		
自己評価作成日	令和2年10月12日	評価結果市町村受理日	令和3年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	令和2年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少し高台の見晴らしが良く気持ちのいい風が通る自然を直ぐに感じられる所に事業所があります。室内の窓からも緑や果物など目で見て楽しく落ち着ける場所です。理念にありますように「ゆったり・ともに笑い・りそうの生活」(ゆとり)を目標としお一人お一人の動き、お気持ちに合わせられるよう急がず無理に進めることなく御本人様のされたいようにを尊重し生活歴、既往歴、現病をしっかりと理解し職員間で声を掛け合い御支援しております。少しの気ずきもそのままにせずその日、その時に話し合える環境を整えております。問題があれば会議、申し送り等において即対応できる体制を作り情報を共有しております。今年度は特にコロナウイルス等で今迄とは違った生活になりましたが面会や外出の自粛等で不安や不穏になれない環境作りを大切にしてきました。ご家族様との御連絡も密にさせていただきました。看取りの受入も職員研修を行いながら積極的に受け入れ致しております。これからも入居者様を真ん中に御支援いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

会社は開設時から「人格の尊重と接遇マナー」を方針として掲げている。職員は利用者を人生の先輩として尊敬の念を持ち、優しい言葉使いや態度を心掛け、穏やかな環境を整えており、利用者は皆、くつろいで過ごしていた。管理者は日ごろから職員の体調や表情に気を配り、気がかりな場合は個別にじっくりと話を聞き、安心して働けるよう配慮している。また、職員は楽しい職場作りに努めており、お互いの特性を認め個々の能力を生かし楽しく働いていることが伺えた。新型コロナウイルス感染防止のために、面会の制限や外出の自粛など続く状況の中でも、室内でのそうめん流し、玄関先で花見、室内で体操やゲームなど過ごし方の工夫がみられた。ウッドデッキで自然を眺めながらおやつを食べたり、季節を感じながら散歩するなど、利用者を笑顔にする職員の優しさが感じとれた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったり・ともに笑い・りそうの生活」の理念に基づいて職員の支援態度や対応について日頃より理念の説明、会議等を使いゆとりのあり方など常に念頭に置いた対応、実践に取り組むことができている。	会社の理念を基本にして、グループホームの理念を「ゆったり・ともに笑い・りそうの生活」と掲げている。毎月一回行われる職員会議で、ケアの中で気になることなど、理念に沿っているか振り返り、実践につなげている。利用者はゆったりとマイペースな生活を送っていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と地域(学校)がそれぞれの立場で繋がりが持てるよう、事業所の季節行事や会を通しての付き合いが出来ている*今年度においてはコロナウイルスの為に交流出来ていない。	そうめん流しや夏祭りなど地域住民やボランティアが参加し、利用者と交流するのが恒例になっている。また近隣住民から季節の野菜など頂いたり、職員が通りがかりの住民に「お茶のみに寄ってください」と声をかけるなど、日常的な交流もある。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため交流を行っていない。	コロナウイルスが終息した際は、利用者が地域に出かけ住民と交流することも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流の機会に認知症になられた利用者の一人一人の理解や支援の方法をお伝えしている。認知症サポートリーダー養成講座の開催支援	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、認知症サポートリーダー、民生委員、警察、消防、社協、役所の方々に参加頂き会議で事例の紹介等行い、ご意見をもらう機会がある。(現在はコロナウイルスの為に開催はせず議事録にて伝えている)	運営推進会議の前に皆で軽く体を動かしたり、「頑張っていることはどんなことですか？」と尋ねたり、リラックスできる雰囲気を作っている。また、席を丸くしてお互いの顔が見えるようにするなど、意見を言いやすくする工夫が見られた。現在は新型コロナウイルス感染防止のため、書面での報告になっている。各委員の立場から情報・提案が寄せられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	今年度においては、自然災害等で施設周辺の土砂崩れ等、非常災害時の対応で市町村とのやりとりも密に行い、利用者の安全確保においても情報共有行っている。	利用者の経済面の困りごとを市に相談して生活保護の手続きをして解決している。提出書類も積極的に市に持参し、担当者や情報交換するなど協力関係を構築している。非常災害時の対応として市の職員が施設周辺の土砂崩れにブルーシートを張るなど対応がっており、日ごろの緊密な情報交換の結果と思われた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の事業所の会議議題に入れ身体拘束をしないケア(身体拘束排除の為の取り組み)について勉強し支援の中で実行している。玄関の施錠についても常日頃から職員間でも声をかけながら確認している	毎月の職員会議で身体拘束に関する研修を行なうとともに、日ごろのケアを振り返り、拘束をしない意識の浸透を図っている。利用者が外を眺めていたり、大きな荷物を手にしているときは、外に出たい、帰りたいというサインである。その際は一緒に散歩に出かけたり、寝たりして利用者に寄り添い、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	身近な県内での虐待事件の報道があれば、当施設に置いて話し合いの機会を持ち、「なぜ虐待はおこったのか」を他人事としてでなく自分だったらと考える機会を作り意見交換を行った。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解については、全員が理解出来ているわけではない為、社内での研修で勉強会が必要な状況である。個々のスキルアップとして今後の課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	基本的には初期の段階で詳しく説明は行っているが、ご利用開始後もご家族とのやりとりにおいて、不安点や困りごと等を尋ねる機会を設けて必要に応じて対応を常々行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度家族会の開催を行い、直接的に意見を聞く機会を設けている。また、日常の中では面会や電話対応時に、些細な言動についても上司への報告として職員各々が申し送りをする徹底を行っている為、クレームになる前に事前対応が出来る体制を整えている。	職員は家族の面会時に話しやすいように笑顔で接し、利用者の状況をこまめに伝え信頼関係の構築に努めている。年1回の家族会も家族が参加しやすいように昼に開催したり、夜に開催したりしており、少しでも多くの家族の意見を聞くという姿勢が感じられた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より会議において、意見や提案を受け環境を整えており一人一人の表情、体調、心配事等に声を掛け必要に応じて個別面談等も行い反映出来る様に体制を整えている	管理者は日ごろから職員の表情や体調などに気を配り、安心して仕事ができるよう配慮している。職員みんな働きやすい楽しい職場作りを努めており、お互いを認め合い得意分野を生かす環境になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の生活にあった勤務時間で働いている。楽しく「明日も来たい」と思える職場作りとして出来ることを伸ばし、出来ない事についてはお互いがフォローしあえる関係となっている。子供さんが小さい家庭では無理なく働けるように、子育てが一段落した職員がカバーできる環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議時に研修の時間を設けている。外部への研修は能力等考えながら参加している。ケアについては都度分かりやすく説明し分からない事をそのままにしないように伝えながら安心して働ける環境を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	圏域での集まり、連絡協議会(地域密着事業所)等に参加するなど情報交換や勉強会等を行っている。気になることなどある場合は都度、電話やライン等も利用し他事業所との連絡交流等行っている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用開始前の生活歴を把握したり、御家族からの聞き取りを行うことで事前の情報収集で早期になじみの関係作りが出来る工夫を行っている。真剣に傾聴し話を重ねていく事で安心して生活が送られるように努めている。不安な表情など読み取り寄り添っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様だけでなくご家族も又不安を大きくもたれていると思われる事を考えながらお話を傾聴したり日々の変化やご本人様の様子など伝えながら信頼関係を築きご要望にお応え出来ればと考え支援している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御利用者様の心身状態の把握に努め、必要とされていることをしっかり聞き取り何が必要かを考えながら支援している。支援で難しい場面がある際は職員間で対応を検討し、困難に思わない思考に転換させる。必要に応じてドクターへの助言など頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お話を傾聴し人生の先輩として尊敬しながら支援させて頂いている。共に活動できることで、楽しさ喜びを共有できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での生活状況を素直にお伝えしている。施設だけでの支えではなく、御家族と協力してサポートできる支援の方法をご家族と一緒に考え対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	生活の場においても御本人が少しでも落ち着いて過ごせるような馴染みの物を居室に置いたり、馴染みの方の面会も常時受けらせて頂いている。(コロナの間は面会なし)その方の以前の暮らし等も理解し会話の中に取り入れている	アセスメントで利用者のなじみの人や場所の把握に努めている。家族や面会者からの情報や日常の何気ない会話の中で新たな情報を得ることもある。入居を知った知人が訪問したり、子どもが学校帰りに「ばあちゃんに会いに来た」と立ち寄ることもある。面会者には元気に笑顔であいさつし気持ちよく迎え入れ訪問しやすくするなど、なじみの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が話しやすい環境を作り席の配置などにも工夫している。会話が少ない方に関しては職員が間に入り他の利用者様との会話につなげている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもご相談が有れば対応出来るよう環境整えている。事例として、御主人が施設利用されていて、中止に至ったあとに、奥様の相談を受けて隣接施設への入所につないだ実績あり。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	身近な意向として、外食等本人様が希望される発言された内容を誕生日会で計画し、お寿司を食べに行ったり、ケーキを食べに出掛けたりして職員間で対応しています。	「ケーキが食べたい」「化粧品を買いたい」「散歩したい」など、日常会話の中で要望を把握し、思いに添う支援に努めている。「家に帰りたい」ときは家族に面会や外出の協力を依頼し、本人の安心につなげている。意思表示が困難な利用者の声なき声を聴き、思いを知りたいと常に努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の情報には必ず目を通し理解できるよう取り組みながら関係の構築に努めている。職員間では利用開始とられた月の会議でカンファレンスを通して情報の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の出来る事を見極め無理されない範囲内で力を発揮される場の提供が出来るよう努めている。一日の生活の中での動き、精神状態を確認しながら寄り添いいつでも対応できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作るにあたっては、担当で目標の進捗状況を用紙に抜き出して課題等を整理した物を会議で発表。他の職員間で意見を出す時間を設けて作成を行っている。	モニタリングは3か月に1回実施。利用者の担当職員が記録や日常の観察を行い、他の職員の聞き取りなどから情報を詳細に収集し、評価を行っている。その評価を家族に読んでもらい確認をとっている。利用者の「〇〇をしたい」という、思いや意向を大切にプラン作成を心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録によりその方々の状態を把握し体調の変化や精神状態についても理解出来るようにしている。又それを支援に取り入れている。日々の気づきがある場合は次の勤務者に申し送りし会議時等に議題に上げ見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に緊急時、体調の変化が見られる場合は想定外の対応と成る為、御家族が対応できない場合に職員で事前に受診の手配を検討したり管理者への相談等連携を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自分たちが全ての地域資源を把握する事は出来ませんがボランティアの方々による交流会や移動図書等を通して利用者の方々に楽しい豊かな時間を過ごしていただいています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	要望や希望に応じた対応を行っている。協力医療機関は施設から5分程の場所があり、看取り期にあられる御利用者様の対応や、日々の往診等利用者様の体調に応じて柔軟な対応に繋がっている。	利用者・家族の希望を尊重したかかりつけ医となっている。協力医療機関への受診時の同行は、ホームで対応している。協力医の24時間対応や、状態によっては往診も可能で、利用者家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で、状態の変化には記録で残し、基本は上司への報告。その後看護師への相談へと繋げている。御家族にはその都度報告をしながら早目の受診促しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかにその方のサマリーをまとめ情報提供を行っている。入院期間の確認を含め、御家族に連絡しながら日々の様子把握に努めるよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態について、食量や検査データの結果等から予想されるリスクを考え、早い段階から御家族・主治医と何度も話し合いを行い御家族のお気持ちも確認しながら終末期を迎えられる環境を整えている。看取りの説明をしながら、病院で出来る事の提案も含め、御家族が選択出来る情報の提供を行っている。	看取りを行う方針である。終末期には心地よく過ごしてもらうために、花や写真を飾り、音楽を流すなど環境を整えている。面会は24時間可能で宿泊もでき、家族との時間を大切にしており、「ここでよかった」と思ってもらえるよう努めている。看取りを経験することで職員も成長し、ケアの質の向上が見られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日々を危機感を持ち支援に取り組んでいる。夜間帯であっても迅速な対応が出来るよう、急変時のマニュアルとして周知を会議内で研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員で災害対策に取り組んでいる。避難訓練等も定期的に行い問題点においては会議などにも取り入れ話し合っている。マニュアルの中に、避難場所の連絡先をファイルしている。	防災訓練は火災や地震を想定し、年2回実施している。職員は毎回訓練を振り返り、課題を検討し次回の訓練に生かしている。台風の接近時は複数名の職員が泊まり込み、利用者の安全確保に努めていた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「笑顔・挨拶・言葉遣い」を理念とし尊敬の気持ちや忘れられないよう、会社の方針を職員に指導している。人生の先輩としての対応を心掛け共同生活の中でも気持ち良く過ごされるよう声かけの大きさなど注意している。	会社の方針として、開設時から「人格の尊重と接遇マナー」を大切にしている。職員は利用者に対して、人生の先輩として大切に思う気持ちで接している。職員はいつでも、誰に見られても聞かれても恥ずかしくないケアや言葉かけを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症やその他の病気により周囲に伝えづらい環境になっておられますがすぐ隣に寄り添い傾聴することで出来るだけ御本人の思いやご希望をうかがえるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人のペースが違う為無理強いすることの無いように支援を行っている。お天気や、季節、テレビの話題等から思いついた行事を楽しめる環境づくりに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの色、洋服、入浴後の整髪、化粧、以前から続けられている習慣の取り組みをサポートしている。必要物品は御家族の協力を得ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日提供のメニューの解説やレクレーション等でも好きな食べ物をたずねる等している。季節の(ラッキョウ皮むき、タケノコの皮むき)食べ物にも触れられる機会を作っている。それぞれの生活レベルは異なるが、出来る家事援助と一緒に取り組んでいる。	誕生日は利用者の好物のメニューを提供したり外食をしている。お節料理は利用者の意見も取り入れて全職員総出で作っており、喜ばれている。たけのこご飯や梅干し作り、栗ご飯や干し柿作りなど、利用者も一緒になって昔を思い出しながら楽しんでいる。手伝いのできない人も見るだけでも参加して、香りや雰囲気季節を感じている。	目で楽しむことや家庭的な雰囲気作りに視点をのいた食事を楽しむ支援も期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を全職員が把握出来るよう表に記載し不足部分においては声掛けし無理強くない範囲での支援おこなっている。また、通常の食事水分で摂取が難しい方は御家族へ補助食の持参を協力お願いしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは本人の能力に応じて、取り組んで頂く声かけをし、職員は出来ない部分の補助と確認を毎回行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々での対応として、それぞれの排泄パターンを把握しながら、誘導と介助を行っている。失敗の原因を探りながら、こちらからの声掛けが必要なのか、それとも表示がわかりづらいのか等検討しながら対応を取っている。	排泄の誘導を拒否する、尿意がない、膀胱炎などの病気があるなど、失禁の原因を探し、その人に合った声掛け誘導や適切なオムツの検討を行い、排泄の自立支援に努めている。その際、周囲に気づかれないようにさりげなく対応し、プライバシーに配慮している。入居時にはオムツだった人が、排泄パターンを把握して声掛け誘導し、紙パンツになった改善例もみられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす症状、リスクを学び、下剤の検討や運動、水分量の摂取等総合的に考えて対応を心掛けている。排便の日数は毎日確実に把握をすることで、日中に出来る支援、夜間の対応等職員が連携して行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	御本人様のタイミングを尊重し楽しんで入られるよう提供している。拒否があれば無理強いせず、一日を通して時間を開ける等工夫をし気持ち良く入られるよう支援している	利用者の入浴したい気持ちを大切にしている。寒いから入らない、服を脱ぐのが嫌、面倒くさいなど、入浴を好まない人の理由も様々なので、その人に合わせて介助者を変える、時間をずらす、声掛けを工夫するなどして対応し、気分良く入ってもらうように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の変化を見極めご自身で訴えられる場合には最優先に対応し訴えが出来ない方に対しては観察しすばやく対応出来るようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の服薬管理を行い確実に服薬出来るよう職員2名での確認後服用行っている。受診後は前回の処方と今回の処方箋とで変更がないかを確認し、薬の情報は常に見ることが出来るように介護記録にファイルしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今年度はコロナウイルス等にて出来るレクリエーションや行事等が限られてしまっていますが、その中でも行える代替え案を職員で話しあいながら取り入れている。(室内でのそうめん流し・玄関先での花見・ドジョウすくい披露)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス等の感染予防の為に外出等控えて貰っているが施設の外への散歩やレクリエーションとうで気分転換をされている。令和2年に入ってから実際コロナウイルス感染予防で取り組みが出来ていない。	新型コロナウイルスの感染防止のために外出自粛中である。車いすの人と一緒にホーム周辺の散歩を楽しんだり、室内でそうめん流し、玄関先で花見、ウッドデッキでおやつ、日光浴、室内での体操やゲームなど、気分転換のための様々な工夫がみられた。コロナ禍でも楽しく過ごしてほしいという職員の姿勢が感じられた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内ではお金を所持したりは無いが必要なものなどがある場合には御家族へお伝えしている所持されない事での心配がないようにつとめている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自身から電話を掛けられるなどないが電話がかかって来た時は付添お話を少しでもされ声を聞かれるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一番は臭いの部分で不快にならないように、日々の清掃は職員全体で取り組んでいる。また、温かみを感じて頂けるように壁の装飾や、動きやすいように動線の確保に努めている	廊下の利用者の見やすい位置に、優しいタッチの絵が飾られており、和やかさが感じられた。リビングではキッチンの昼食の準備の音や香りに包まれながら、利用者は好きな場所で自由に過ごしている。ソファにどっしりとかけている人、和室で寝転がっている人の光景があり、くつろいでいる様子がうかがえた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的には、指定された席は作らず、過ごされたい場所で、過ごして頂いています。どのようなシチュエーションでも対応出来るように、椅子を移動させたり、気の合う方との席の配置を御準備したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるもの(写真や置物、自身で制作された物)を居室に配置し以前の暮らしから切り離さない様工夫している	ホームが準備しているのはベッドのみで、他は利用者のなじみのものが持ち込まれている。敬老の日に社長から贈られるお祝いの色紙を並べて飾っている人、大切な人の写真・お花を飾っている人など、壁いっぱい飾られた部屋や、シンプルな部屋など、その人にあった部屋作りがみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御本人が迷わず自室へ向かうことができるように、部屋前には表札を作り、それでも判りにくい方には別に目印と物をセットしたりして工夫を行っている。		